

導入事例 Case study

すずらん整形&Lab 様



**圧倒的なコストパフォーマンスと柔軟なサポート体制。
次世代の整形外科クリニックがクラウド型の
「Climis」を導入した理由とは？**

2024年6月に筑波大学の近隣に開業した「すずらん整形&Lab」。『五感を刺激する空間づくり』をコンセプトに、リゾートホテルのような安らぎと、最先端の知見やIT融合させた次世代のスマートクリニックです。診療の大きな柱となっているのが、放射線科医としての高度な専門性を活かした画像診断と、AIを活用したスポーツ医学に基づいた予防・リハビリテーションです。今回、同院の精密な医療を支える画像管理システムとして「Climis」を導入された理由について、石井壮郎院長にお話を伺いました。

自らの手で直接病気を治したい

-- 先生のご経験についてお聞かせください。

私は三重大学を卒業後、最初の3~4年は放射線科医として、全身の画像を読影し各科の医師に助言する役割を担っていました。読影の仕事には大きなやりがいを感じていましたが、次第に画像で助言するだけでなく、自らの手で直接病気を治したいという想いが強くなり、筑波大学大学院へ入学しスポーツ医学を専攻、AIを用いた動作分析などの研究に没頭しました。特に治療や手術によって完治を目指せる整形外科は、患者さんの回復に直接関わり、共に喜び合える点に強く惹かれ、整形外科への転身を決意しました。

放射線科で培った精緻な読影技術と大学院で深めたスポーツ医学の知見が当院の強みとなっていきます。



石井 壮郎 院長

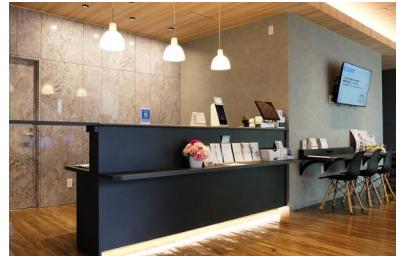
-- ご開業のきっかけについてお聞かせください。

専門病院で手術に注力する傍ら、混雑する外来で一人ひとりに十分な時間をかけられない現状に疑問を抱きました。既存の枠組みでは難しい「丁寧に向き合う診療」を実現するため、自ら理想の場所を作ることを決意し、「すずらん整形&Lab」を立ち上げました。納得できる説明で患者さんの不安を取り除き、笑顔で帰っていただけるクリニックを目指しています。

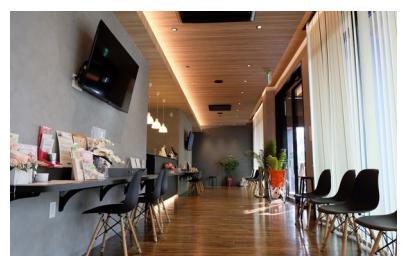
コンセプトは「五感を刺激する空間づくり」

-- クリニックに入った瞬間、病院とは思えない雰囲気にもとても驚いたのですが。

初めての来院は誰でも緊張するものです。その不安を少しでも和らげたく、内装には徹底的にこだわりました。コンセプトは「五感を刺激する空間づくり」です。カフェやリゾートホテルのような居心地の良さを目指し、デザイナー設計の温かい照明や、リラックスできるオルゴールのBGM、時にはアロマの香りも取り入れています。受付スタッフも「コンシェルジュ」として、患者さん一人ひとりに寄り添うおもてなしを心がけています。



クリニック受付



カフェのような待合ロビー

-- 貴院では、どのような医療設備や診療体制を整えていますか？

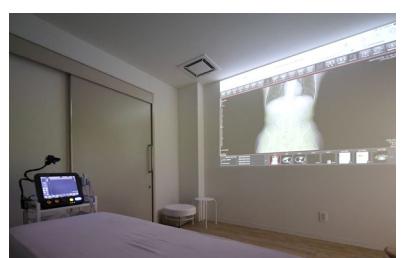
当院では、放射線科医として研鑽を積んだ経験を最大限に活かせるよう、高度な診断機器と「見える化」のための設備を導入しています。まず大きな特徴は、MRIやCT、エコーによる高精度な画像診断です。



MRI検査装置

私は元々、読影の専門家である放射線科医でしたので、細かな病変も見逃さないように心がけています。また、閉所恐怖症の方でもリラックスして検査を受けていただけるよう、MRIはオープン型のMRIを採用、検査室の壁一面には奥行きを感じる美しいブナ林の壁紙をあしらうなど、心理的な安心感にも配慮しています。

また、エコーを活用した「エコーガイド下治療」にも注力しています。診察室のプロジェクターでリアルタイムに炎症部位を確認しながら、1mmの狂いもなく的確に薬剤を注射することで、即効性の高い痛みの緩和を図ります。患者さんも「どこが原因で、今そこに薬が入った」というプロセスが目に見えるので、納得していただいていると思っています。



診察室で Climis画面をプロジェクターに投影

-- リハビリテーションにも力を入れていると伺っていますが、どのような特色がありますか？

当院が最も大切にしているのは、一時的に痛みを取り除くだけでなく、「痛みのない状態を長く維持する=再発させないこと」です。そのために、理学療法士が初診から治療の終了までマンツーマンで一貫してサポートする体制を整えています。

特徴としては、ヨガやピラティスの要素を応用した独自のアプローチを行っていることです。院内には専用の広いスタジオを設置しており、ヨガ・ピラティスを専門的に学んだ理学療法士が指導にあたります。これらは身体の柔軟性を高めるだけでなく、自分の体をどうコントロールするかを学ぶのに非常に優れており、快適に健康を維持する大きな助けになります。



ヨガやピラティスも可能な広いリハビリ専用スタジオ

科学的な根拠に基づいた「痛みの出ない体づくり」

-- クリニック名にある「Lab(ラボ)」という言葉には、どのような意味が込められているのでしょうか。

Lab(ラボ)には一般的な整形外科分野の診断や治療に加え、最新のスポーツ医学を研究し、実践する場という意味を込めています。大学院時代から取り組んでいるAIを活用した動作分析の研究がその核にあります。

例えば、私が開発した

「投球障害・予測システム」では、スマートフォンの動画から関節の角度をAIが自動で認識し、ケガの確率をシミュレーションできます。これまで大学などの研究機関でしかできなかった高度な分析を一般の患者さんやスポーツを頑張る学生さんにも提供したい。科学的な根拠に基づいた「痛みの出ない体づくり」をサポートすることも当院の特徴の一つです。



CYBER BASEBALLのWebサイト

圧倒的な「コストパフォーマンス」と「容量無制限」の安心感

-- 数あるPACSの中から、最終的に「Climis」を選ばれた最大の決め手は何でしたか？

決めては圧倒的なコストパフォーマンスです。開業時は内装や医療機器に多額の投資が必要なため、システム費用の抑制は必須でした。他社のオンプレミス型の見積もりは400万～500万円と非常に高価でしたが、Climisは低額な初期費用と月額利用料の料金体系です。また当院はCTやMRIに加えて、エコーの動画データも大量に発生します。他社システムではデータ容量に応じて費用が上がるケースが多いのですが、Climisは「保存容量が無制限」です。どれだけデータを蓄積してもコストが変わらないという安心感は、画像診断を重視する当院にとって大きなメリットでした。

-- 実際に使ってみて、クラウド型で懸念される画像表示スピードは気になりましたか？

実は導入前は画像表示速度を懸念しており、「もし遅ければオンプレミス型に切り替える」という別のプランを、担当の方と相談していました。しかし、実際にテスト運用してみると、自宅や



Climisでの画像表示

は非常に快適で、全くストレスを感じませんでした。さらに、クラウドの恩恵は計り知れません。例えば、勤務外でも自宅から画像を確認できますし、外部の専門医にコンサルテーションを依頼する際も、URLをメールで送るだけでセキュアかつ瞬時に画像を共有できます。この機動力はオンプレミス型では実現できなかつ強みです。

診療を支える柔軟な機能とサポート

-- 操作感や、電子カルテとの連携はいかがでしょうか。

診察室では壁一面に画像をプロジェクターで映し出す「見える説明」を行っています。Climisのビューアは操作がシンプルで、距離や角度の計測もスムーズに行えます。最近では、患者さんから「画像をスマホに保存したい」という要望も多いのですが、Climisを介してスマートに画像を提供できる仕組みも気に入っています。また、電子カルテ（デジタル）との連携も密接です。設定次第で患者IDに基づいた画像呼び出しがスムーズに行えます。導入時には担当の方がリモートで付きっきりでサポートいただき、ネットワーク設定などの複雑な作業も無事に完了できました。こうした「困ったときにすぐ頼れる」サポート体制こそが、システムの安定運用には不可欠だと感じています。

-- これからPACSの導入を検討されている先生方へ、メッセージをお願いします。

まずは実際にデモサイトなどで「自分の環境でどれだけ動くか」をテストしてみることをお勧めします。Climisは事前に使用感をチェックできるので、導入後のギャップがありません。高価なサーバーを院内に置くリスクを取るよりも、低コストで高機能、そしてサポートがしっかりしているClimisのようなクラウドシステムを選ぶことは、賢い選択だと思います。



取材協力:すずらん整形&Lab
(2025年12月 取材)